

戦跡を訪ね沖縄へ 今なお抱える基地

青年職員が感じた今昔の沖縄問題

金作美紀●西東京生協歯科 歯科衛生士

12月9日から3日間の日程で青年職員を対象にした東京民医連三多摩ブロックの沖縄平和研修に西東京生協歯科の金作衛生士が参加。現地での貴重な体験を通して、また一人、平和への想いを強く持った担い手が誕生しました。

この度は皆様のご支援、ご協力の下、沖縄平和研修に参加させていただき有難うございました。沖縄での研修3日間は天気にも恵まれ沖縄戦や基地問題について現地で貴重な研修時間を過ごす事が出来ました。

無念、悲しみ、悔しさ

研修1日目は、まず那覇空港から魂魄の塔という住民の手で最初に建てられた骨塚を訪れました。一帯は当時住民が米軍に追い詰められ多くの命を落とした場所と聞きました。そのままの状態のまま放置され土の中に散在していた遺骨を探し出す手段として、木の実がよく育つ木の下を掘り起こして探したりしたと聞き、遺骨を自分たちで探し出すために土を掘り返すという気持ちを考えると住民の無念や悲しみ悔しさなどの気持ちは計り知れなく感じられました。

その後、ひめゆり平和祈念資料館を見学し



ました。参加者全員が見学時間のほとんどを戦争体験者の皆さんの証言映像で胸が締め付けられ続けるように動かず、他の見学者や修学旅行生と静かに見続けていました。学徒隊として軍人により解散命令が言い渡され米軍が包囲する戦場に放り出されたその後、散り散りに別れた友人との生き別れや手榴弾で自ら命を絶った人々を目の当たりにし一生忘れられないと涙ながらに語る証言や、妙なアクセントで壕の入り口から「デテコーイ、デテコーイ」と呼ばれながら出て出なくても自分は死ぬのであろうと震え続けたという戦場での惨状を聞き、過ちを繰り返さないためにもこの証言をこれからもずっと伝えていくべきだと感じました。

絶望の淵で生きる

2日目は南風原にある戦争遺跡文化財指定の陸軍病院壕跡を訪れ、ヘルメットを被り懐中電灯を持って実際に当時の壕の中を見学しました。奥に進むと壕の壁が黒くなっている所を見るように言われ目を向けると、壕の壁至る所がまだらに黒くなっていました。黒い部分は米軍の火炎放射器で焼かれた跡と聞き、壕の薄暗く狭い通路で重症を負った患者たちがいる中でそのようなことが行われたと思うと絶望しかない結果に戦争中の手段を選ばない行為に恐怖しか感じられませんでした。壕

を出て当時鉄の暴風として降り注いだ爆弾の破片の重さを実際に体験し、これが空から降ってきて当たりでもしたらと考えると命は助からないだろうと確信を持たざるを得ない重さに驚く以上に、命を落とした方々の苦しみを考えると胸がいっぱいになりました。また、当時の壕内の臭いを再現した小瓶を嗅がせてもらおうと医薬品や血、汚物などの臭いを感じ当時の壕内を嗅覚でも体感することが出来ました。

美しい海をなぜ？

その後は普天間基地問題について学ぶため実際に基地周辺を訪れ、いかに基地が住宅地と近接しているかを高台公園にて遠望し、自分の一眼レフでもないデジタルカメラのズームでこれだけ近くで撮影できてしまえる程の基地と住宅地の近さに驚きました。



また沖縄国際大学を訪れると、米軍ヘリ墜落事件で負傷者が出なかったことが奇跡と言える程の距離であることは勿論、町中にある大学のため周辺住宅地での負傷者も出なかったことも唯一の救いだったと感じると同時に、これだけの近さを実際に感じると基地問題がいかに沖縄の住民の方々にとって生活上大問題であるかということを感じました。

オスプレイのヘリパッド建設予定地である高江の見学では、既に森の中にヘリパッドが出来上がりつつある事、自然豊かな森の中に伐採された多くの木々の跡がまるでミステリーサークルのように不気味に工事される様子は見るに堪えないものでした。



ツアーに参加した三多摩の青年職員たち（後列右が金作さん）

3日目には辺野古を訪れ、新基地のために埋め立て予定となっている海岸へ行きました。美しい海と白い砂浜の中にそびえ立った埋め立て予定地内へ立ち入りを禁止する異様な柵は、私がイメージする沖縄のビーチから一転し沖縄が抱える基地問題の重さを思い知らせました。辺野古のサンゴ、ジュゴンが生息する美しい海を、なぜ基地のために埋め立てようなどと考えるのか私には理解が出来ませんでした。

知ることによって変わる

沖縄平和研修の三日間を通し、今まで「沖縄の問題」と基地問題を捉えていた自分がいたことに気付きました。現地でも「沖縄だけの問題と思わないで欲しい。同じ日本国が抱える問題なのだから一緒に考えてほしい。」と言われ、自分も別問題として少なからず捉えていたことに気付きました。



実際に現地に行き沖縄が直面している基地問題について知ると、本土の人間一人一人も重大に受け止め考えていくべきだと強く思いました。沖縄戦での悲劇を繰り返さないためにも、沖縄の抱える基地問題解決のためにも連日報じられるニュースに耳を傾け現状を知ろうとする姿勢を持ち、署名活動など出来ることから行動していきたいと思えます。貴重な研修をさせていただき有難うございました。